

# 協働による包摂的なまちづくり／ ベルギー・ゲント市

丸山 鳴 国連大学サステナビリティ高等研究所 (UNU-IAS) プログラム・アソシエイト

ゲント市は、EU本部のあるベルギー・ブリュッセルから約50kmに位置する人口約26万人の都市である。金沢市とは姉妹都市関係にあり、音楽分野のユネスコ創造都市ネットワークに加盟している。大学や市役所などの新しいビルが立ち並ぶ一方で、古城や大聖堂といった多くの歴史的建造物にも囲まれた街である。

ベルギー国内においてゲント市はSDGs推進の中心的な立場を担う。2018年には近隣都市と連携して日常生活の中からSDGs達成に貢献するキャンペーン「SDGs Voices」が国連SDGアクションアワードを受賞した。市のミッションは、「包摂的で子供に優しい開かれたゲント」。市民と共に包摂的で持続可能なまちづくりを進めるゲントの取組を取材した。

## 協働のまちづくりの仕組み

ゲント市では、市の職員が住民・大学・企業・専門家・議員をつなぎ、市民の様々なアイデアをまちづくりに反映している。協働のまちづくりを推進するのは、政策参画サービスユニットと呼ばれる市長直轄の課である。課では、約20名の地域マネージャーが市の1-2区画を担当区画として受け持っている。職員は、ワークショップやオンライン意見交換会を企画し、市民から積極的にまちづくりのアイデアを聞き、実現にむけて様々な関係者と調整を行う。

市、住民、企業の連携によって実現した「リビングストリート」と呼ばれる企画では、住宅地の25の道路を2ヶ月封鎖し、住民がくつろぐことができる自宅のリビングのような共有空間として活用した。こうした空間は、様々な立場

や背景を持つ住民が集い対話が生まれる場となり、顔の見える包摂的なコミュニティの構築にもつながった。

## 公共施設における包摂性

市の公共施設でも、様々な立場の市民の交流が生まれる場づくりの工夫が見られる。コンサートを開催する文化センターでは、移民向けの語学学習会や雇用支援も行われている。また、市内中心部にある芸術施設の1階にあるカフェでは、飲物や食べ物を必要としている誰かのために、ゆとりのある人が余分に料金を払うシステムを採用し、誰もが入りやすい空間が作られている。SDGsの理念である「誰ひとり取り残さない」視点が、機会へのアクセスも含めて共有空間のデザインに反映されており、包摂的なまちづくりにつながっている。

本記事は、環境省令和元年度請負業務「地域循環共生圏の創造に向けたパートナーシップ民間参画推進調査業務」の海外調査結果をまとめたものです。



商店街には、サステナビリティをテーマにした店舗が立ち並ぶ。ゲントの様々な取組はこうした店舗の誘致にもつながり付加価値を向上させている。